

病院におけるC型慢性肝炎の院内拾い上げシステムの構築

研究分担者：玉城信治 武蔵野赤十字病院 消化器科 副部長

研究要旨：C型慢性肝炎は内服薬で根治可能となった。そのためC型慢性肝炎の見落としは健康上の重大な不利益となる可能性があり、病院内での適切な拾い上げは重要な課題である。しかし消化器内科以外への周知は十分でなく、院内での適切な拾い上げシステムの構築が重要である。そこで肝炎コーディネーターを取得した看護師、検査技師らと協力して拾い上げシステムを構築した。具体的にはHCV抗体陽性者をカルテ上より拾い上げ、適切なフォローアップがなされていない症例を抽出し、その場合には主治医などに直接注意喚起を行った。これによって適切にフォローアップされていない症例を大幅に減少させることが可能であった。

A. 研究目的

C型慢性肝炎は内服薬によってほぼ全例で治癒することが可能である。このためガイドラインでも基本的には全例で治療対象となることが明記されている。したがってC型慢性肝炎を見逃してしまい、治療機会を失ってしまった場合には、患者に重大な不利益をもたらす可能性がある。このためC型慢性肝炎の適切な拾い上げはすべての病院にとって重要な課題である。しかし消化器内科以外ではこれらの周知が十分になされていない状況であり、適切な拾い上げがなされていない現状がある。そこで、院内でのC型慢性肝炎拾い上げのシステムを構築し、適切な拾い上げが可能かどうかを検証することとした。

B. 研究方法

当院で測定されたHCV抗体陽性者を全例リストアップする。それらの症例のカルテをチェックし、適切な検査やフォローアップがなされていない症例を抽出した。このような症例に対しては主治医に

直接注意喚起を行い、検査や消化器内科へのコンサルトをするように働きかけた。また全医師に肝炎拾い上げの重要性を周知し、協力を仰いだ。その結果、適切な検査やフォローアップがなされていない症例がどの程度まで減少するかを検証した。これらの拾い上げは肝炎コーディネーターを取得した看護師、検査技師などのコメディカルと協力して行った。

C. 研究結果

以前は適切な検査やフォローアップがなされていない症例は約15%あった。この新たなシステムを構築し、稼働したのちにはその割合が3%まで減少し、院内での適切な肝炎拾い上げ体制を構築することが可能であった。

D. 考察

HCV抗体陽性者を定期的に拾い上げ、全例カルテチェックをすることで、C型慢性肝炎患者を適切に拾い上げることが可能であった。このシステムを水平展開していくこと

も今後、他の病院における肝炎拾い上げに重要と考えられる。またこの活動の推進には肝炎コーディネーターを含む多職種の協力を得ることで円滑に進めることが可能であった。そのため肝炎コーディネーターがはたす役割が極めて重要と考えられた。

E. 結論

C型慢性肝炎の拾い上げシステムを構築することで、適切な拾い上げが可能となり、適切な医療を提供することが可能となる。またその推進には肝炎コーディネーターの働きが重要である。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

院内における肝炎患者の拾い上げ活動
肝炎コーディネーター養成の講師
東京都の肝疾患拠点病院の副センター長として拠点病院業務に従事した

G. 研究発表

玉城信治 大都市圏での肝炎医療コーディネーターの活躍への期待・肝疾患拠点病院での取り組み 肝胆膵 第88巻2号179-184

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他